

第5節 基本目標5

政策5-1 豊かな環境を守り育て、地球にやさしい循環型社会を構築する

目的 かけがえのない環境を将来の世代に引き継いでいくため、豊かな自然環境を守り育てるとともに、環境負荷を低減し、持続的な発展が可能な循環型社会を構築する。

現状と課題 日光国立公園に代表される優れた自然や里山などの多様な生態系は、全国に誇れる県民共有の財産であり、将来にわたって保全していく必要があります。

しかし、これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄型社会の経済活動により、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、エネルギー消費の拡大、廃棄物の増大など、環境への負荷の増大による悪影響が懸念されており、近年では温室効果ガスによる地球温暖化などの地球規模の環境問題も発生しています。

このため、県民すべてが、自然の大切さを認識し、豊かな自然環境を守り育てるとともに、これまでの産業活動やライフスタイルを見直し、環境への負荷の少ない、地球にやさしい循環型社会を構築していくことが求められています。

目的実現に向けた取組の方向

- | | | |
|--|---|----|
| <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境の保全への貢献 ・良好な地域環境の保全 ・廃棄物対策の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然環境の保全 ・3Rの推進 ・自主的な環境保全活動の推進 | など |
|--|---|----|

政策5-2 心やすらぐ暮らしを守る

目的 地域を支えるすべての主体が連携して、やすらぎある暮らしの基本となる安全を確保し、犯罪や事故のない明るい地域社会を実現する。

現状と課題 近年、高度情報ネットワーク化を背景としたハイテク犯罪や暴力団・来日外国人等による組織犯罪が多発する中、少年非行の深刻化や地域社会の連帯意識の希薄化等様々な要因が相まって、犯罪の増加や凶悪化の傾向が強まっており、県民の体感治安が低下しています。

また、本県は全国的に見て自動車の普及率が高いことが一因となり、人口当たりの交通事故死者数の割合が高いという憂慮すべき状況が続いています。

さらに、多様な販売形態が一般化する中、架空請求など消費生活の安定を脅かす事件も多発しています。

こうした状況の中、地域を支えるすべての主体が連携して、犯罪や事故の未然防止に努めるとともに、被害者等の相談・支援体制を確立し、安全と安心を実感できる地域社会の実現が求められています。

目的実現に向けた取組の方向

- ・安全な地域社会の実現
- ・交通安全の確保
- ・消費者の自立の支援

など

政策5-3 災害・危機に強い県土づくりを推進する

目的 大規模災害やさまざまな危機事象に対して県民の安全を確保するために、これらの災害等に迅速・的確に対応できる体制を整備するとともに、災害に強い県土づくりを推進する。

現状と課題 産業構造の変化、都市化、高齢化等の社会情勢の変化に伴い、災害の様相も複雑・多様化かつ大規模化してきています。

さらに、テロ、情報システムへの脅威、さらには武力攻撃等の新たな危機事象の発生も想定しなければなりません。

今後とも、災害やさまざまな危機事象から県民の生命・財産等を守るためには、それらの災害等に対し、速やかに初動体制を確立することはもちろんのこと、県民の防災意識の高揚をはじめとして、治山・治水・砂防や防災拠点などの基盤整備、消防・防災・危機管理体制の充実により、予防・応急・復旧対策を、総合的かつ計画的に推進することが必要です。

目的実現に向けた取組の方向

- ・防災・危機管理対策の充実
- ・治山・治水・砂防の推進

など